

おだがいさま

odagaisama

第55号
平成26年
12月1日発行

泉町町内会避難訓練



車イスでの移動は
少しの段差も大変!

“住民みんなが参加できる避難訓練”を合言葉に!

9月14日内川ほっとパークを会場に、泉町町内会の避難訓練が行われました。

同町内会では“住民みんなが参加できる避難訓練”を合言葉に、訓練に車イス介助講習を一昨年から取り入れていますが、今年度はさらに町内にある知的障がい者のグループホーム「けやきの杜」の皆さんにも積極的に参加を呼び掛け、4名が初参加しました。

訓練終了後、町内会役員の方々から「また、来年もこいの～」と声をかけられたときの「けやきの杜」の皆さんのほかにんだ笑顔。

“住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせるまちづくり”の第一歩は、こんなやりとりから始まるのかもしれない……。

～藤島地域～

住民参加を大切に 住民の声から地域を 作り上げる!

市内で積極的に取り組まれている地域福祉活動を紹介するシリーズ。第3回は藤島地域での取り組みを紹介します。

公民館から 地域活動センターへ

平成二十六年四月に藤島地域は五つの地区ごとに自治振興会が誕生し、これまでの公民館は地域活動センターとして新たなスタートを切りました。

そのひとつ、藤島地区自治振興会では六つの専門部会を設け、各町内会長を中心に、これまでの公民館活動に、福祉・防災・防犯の役割も加え、住民の声を基にした新たな地域づくりに取り組んでいます。

まちづくり ワークショップ

藤島地区自治振興会では、理事や評議委員など一部の人が事業の計画を立てるのではなく、大勢の地域の人々の声や知恵を結集しながら、取り組みを考えていこうと「まちづくりワークショップ」を行っています。

各町内会から選ばれた約五〇〇人の住民から①藤島地区のいいところ②課題と感じていること③将来、藤

島地区がどうあってほしいか④住みよい町づくりのために、自分たちができること、の四つについてそれぞれカードに記入してもらい、今、住民は何を思いながら暮らしているのかを把握することから始めました。調査では、子ども達の声を拾うことが難しかったことから、学校の理解をいただいた上で、小中学校各クラスの子供・生徒から協力いただくなど、まさに少子高齢社会を実感しながらの調査となりました。

ここで出された約一八〇〇枚のカード



ードは①小学生②中学生③三十九歳まで④五十歳まで⑤六十歳以上、の五つの年代に分けられ、それぞれの年代の思いや考えていることを浮き彫りにした上で、藤島地区全体の傾向をつかむため、理事、市庁舎地区担当職員、藤島福祉センター職員が協力して作業を進めました。

今後ワークショップを開催し、この結果を基に藤島地区でこれから取り組んでいくことを、住民みなで話合っていく予定です。

安心、安全、快適に、いくつになっても住みよい藤島地区にしようとの思いの中、住民主体の話し合いや仕組みづくりが始まっています。

藤島地域は「つや姫」が誕生した稲作農業の先進地です。獅子踊りなどの伝統芸能も盛んで地域で大切に伝えられています。

六十一の町内会は大きく五つの地区に分かれ、それぞれで行事が盛んに行われて地区意識が非常に強い地域です。

人口は一〇八四七人、高齢化率は三十一・四%と一昨年から三十%を超え、一方で十四歳以下の人口減少も顕著に見られるなど、核家族化とともに少子高齢化が著しく進行しています。

(平成二十六年四月一日現在)



地域ルポ
2014 秋

地域の「集い」に 「元気の源」を見つけました!!

「出会う人」がいる、「集う場」がある、「やること」がある、それらが「地域力」をUPする!!
体操だけではもの足りない?人々がつくる地域の「集い」にある「元気の源」を紹介します。

畑の恵み自慢でサロン開催!

朝日地域 本郷サロン

朝日地域の老人クラブでは、地区ごとに会員が話し合いながら多種多様な活動を行なっています。中でも特徴的なのが本郷老人クラブです。

11月のこの時期、会員自ら丹精込めて育てた「自慢の野菜」を定例サロンに持ち寄り“競い合っ”品評会を行なっています。市販の野菜よりも大きく迫力ある白菜やキャベツなど、一目見ただけで会員たちの目をくぎ付けにします。

里芋で特選受賞した帯刀弥一さんは、「20年前から畑を始め、今では周りの人たちにアドバイスをしている。手間暇かければかけるほど良いものができる。」と話してくれました。今年は天候もよく生育は順調だという事です。

こうした生活の中の身近な出来事やゲームなどをサロンに取り入れ、楽しく工夫しながら意欲的な活動をしています。



「自慢のやさいを品評中！」

毎週 楽しみ 月曜日 🎵

大塚町 月曜会

大塚町サロン「月曜会」は、社協が主催した「なり元気塾※」に参加した大塚町の方々が中心となり、町の人や一人暮らし高齢者が集まるところを自分たちで創ろうと平成25年に立上げ今年2年目を迎えています。現在では59歳から96歳までの24名が登録し、幅の広い「世代間交流」が繰り返されています。

10月20日秋晴れの月曜日、おにぎり持参でおよそ20名のご婦人たちが集い、歌に合わせての踊りや、ボールなどを使った手遊び、足遊びのレクリエーションを行った後、楽しい会話の絶えない芋煮会食が行われました。



リズムにあわせて“脳トレ”中

この日もサークル一番の知恵袋として頼られる“大先輩おばあちゃん”(最高齢96歳)を囲み、好きな「荒城の月」を四番まで歌いきるという“大合唱健康法?”“にみんなと一緒に挑戦。集まった皆さんの尊敬を集める中、レクリエーションはより一層楽しい盛り上がりを見せていました。

※なり(身体)を元気に楽しく仲間づくり、生きがいづくり、地域づくりを行う介護予防事業(市社協主催)

伝統芸能で地域も人も元気になる 民族芸能が元気の源!!

大山地区 大山いざや巻保存会

“大山いざや巻”(拍子木と歌に合わせてセリフを交えて踊る演舞)は500年の歴史を持ち、梶尾神社の神宿に当たる町内で必ず舞われていた民俗芸能です。

昭和35年以降に途絶えてしまった伝承を復興しようと、昭和50年に「大山いざや巻保存会」が発足され、現在では60代から80代の女性会員11名が活動していますが、この活動が健康・生きがい・交流の場づくりにもなっています。

4年前に立ち上げた保存会の子ども部会「キッズ華の会」での伝承活動は、会員が特に楽しみにしている交流活動です。大山小学校の協力のもと、現在11名の児童が稽古(毎週木曜日)に励み、まつりやイベント公演で地域を盛り上げています。

放課後、ランドセルを背負った子どもたちが「ただいま〜、今日のおやつ何?」と稽古場の新民館(小学校内)に顔を出します。すると、「おかえり。おやつは練習の後だよ。」と、まるで自宅にいるような雰囲気の中で稽古が始まります。

“大山いざや巻”が繋ぐ交流は「みんな自分の孫みでだ。めんこいよ。」と話す保存会全員の元気の源になっています。



演目「誉的」を特訓中



稽古後みんなでおやつ時間

表彰

去る十月十六日(木)に中央公民館で「福祉のつどい」が開催され、長年、地域福祉の向上に貢献された方や団体へ難波会長から、表彰状・感謝状が贈呈されました。

◆表彰状

- 小林 洋子氏
- 齋藤 健蔵氏
- 武田 伊作氏
- 佐々木 秀雄氏
- 五十嵐 昭市郎氏
- 橋本 廣美氏
- ギターバンドおっちゃんズ

◆感謝状

- 五十嵐 新一様
- 山口 春治様
- ㈱荘内日報社様
- 真言宗豊山派仏教青年会様
- ルネサス山形セミコンダクタ労働組合様



i 情報掲示板

「ふれあい福祉相談」のご案内

- 常設相談(職員対応)
月～金曜日(祝日は除く)
午前8時30分～午後5時15分 各福祉センター
- 弁護士相談(無料・要予約)
12月10日(水)
午前10時～午後3時 鶴岡福祉センター
1月14日(水)
午前10時～午後3時 鶴岡福祉センター
1月28日(水)
午前10時～午後3時 鶴岡福祉センター
- 問合せ先 各福祉センター(ページ下段に記載)

鶴岡福祉バス抽選会(4～6月分)
事前申請受付のお知らせ

鶴岡地区福祉バス抽選会(平成27年4月～平成27年6月利用分)のための事前申請を次の日程で受け付けます。

- ・申請期間:
平成27年2月2日(月)～2月16日(月)まで
※1団体1回の予約ができます。
- ・対象:
原則として合併前の鶴岡市に住所を有する個人または団体
- ・申込み/問合せ:
申請書は鶴岡福祉センター(にこ♡ふる2階)に準備しています。
鶴岡市社会福祉協議会総務課 ☎24-0053

ご寄付ありがとうございました

みなさまのご厚志に心より御礼申し上げます。
(平成26年9月10日から～平成26年11月9日までのご寄付を掲載しています)

★一般社会福祉事業へ

◎鶴岡福祉センターへ

- ・五十嵐 政一様
基盤(脚付)1台、基石、基盤折りたたみ1台
- ・鶴岡市OB有志様 8,331円
- ・黒羽根 洋司様 研修用稼働椅子(1台)
- ・八沢会様 50,000円
- ・匿名 商品券(7,000円分)
- ・出羽庄内国際村ワールドパザール実行委員会様 11,500円
- ・劇団 夢一座様 30,000円

◎藤島福祉センターへ

- ・曹洞宗山形第三宗務所第九教区寺院様 40,000円
- ・曹洞宗山形第三宗務所様 50,000円

◎朝日福祉センターへ

- ・あさひ駐在所連絡協議会 会長長南和志様 3,240円
- ・田川労働組合朝日分会様 17,800円

★東日本大震災の避難者支援活動へ

- ・神田 寿子様 5,000円
- ・出羽庄内国際村ワールドパザール実行委員会様 11,500円

★地域福祉センターなえづへ

- ・匿名 4,822円

★高齢者福祉センターおおやまへ

- ・匿名 ボールペン、蛍光ペン各種(33箱)

★老人デイサービスセンターふれあいへ

- ・石川 鉄雄様 商品券(1000円×5枚)
- ・阿部 武様 介護用品各種(オムツ等)

★老人デイサービスセンターおおやまへ

- ・匿名 ベダル式トレーナー、4点杖

★はちもりへ

- ・福田 八十吉様 リクラインングマッサージチェア

★くしびきデイサービスセンター及び各保育園へ

- ・櫛引地域婦人会様 タオル※新品×400枚

★鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるまへ

- ・菅原 美佐子様 50,000円

★鶴岡西部児童館へ

- ・阿部 光行様 絵本、児童書一式(83冊)
- ・石川 剛様 幼児車1台(中古)

おだがいさま

第55号
平成26年12月1日発行
発行部数 49,300部



編集・発行
社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会
鶴岡市泉町5番30号 (にこ♡ふる2階)
TEL 24-0053 FAX 23-9110
ホームページ <http://www.shk01.jp/>

鶴岡福祉センター TEL 24-0053
藤島福祉センター TEL 64-3100
羽黒福祉センター TEL 62-4534
櫛引福祉センター TEL 57-5300
朝日福祉センター TEL 53-2795
温海福祉センター TEL 43-2114

この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。